

ルシャ川の実取扱いについて

1 第1回会議での意見等

- ・千鳥にダムを切るなら、第2ダムの切る位置を左岸側でなく右岸側にした方が適当。第2ダムの右岸側には冬場、暖かい湧水が溜まっていて現在もシロザケの産卵が多く見られる。
- ・千鳥に切ったダム間の方向・範囲内で適切に滞筋が振れば良いが、ダムを切る幅40mは現状の滞筋よりも明らかに広いため、上流ダムから流下した水がそのまま下流のダムへ流れ、水制工状態となったダム周りが洗掘される危険がある。直線的に切っても40m幅があるのでその中で滞筋が振れると考えた方が妥当。
- ・河畔に成立した林帯は、土砂流出防備保安林であること、流出すると漁業被害の懸念があることから、これを保全することとしてダム改良を設計した。
- ・林帯を保全するようダムを千鳥に切るとの提案だが、元々の自然が砂礫で覆われた扇状地で、その部分に湧水があったとすれば、林帯があることによりシロザケの産卵できる可能性を潰してしまっているとの解釈もできる。
- ・林帯は流木の抑止効果もあるが、流木の発生源ともなってしまうので、都合の良い面ばかりから捉えない方が良い。
- ・ダム上流右岸の築堤は撤去し、もっと広い氾濫源としたほうが良い河畔になるのではないかと。
- ・ダム上流右岸の築堤を撤去した場合、滞筋が右岸側に寄ってしまい、水制工となったダムの堤体そのものに水流が当たってしまうことが想定され危険である。
- ・第2、第3ダム右岸側の水抜き穴は30cmと小さく、現在埋まってしまいその上流はプール状になっている。埋まっているものをこの状態のまま除去しても再度埋まることが想定されるので、もう少し穴を大きくするのが適切。

<会議に欠席された丸谷委員から頂戴したご意見>

- ・平面的には、河川は洪水のたびに流路変動しているということを考慮しておく必要がある。30cm級の礫が散乱していることから、どの程度の掃流力があるか推定し、洪水の際には多くの砂礫が移動して流路が変わることを考慮しておく必要がある。
- ・カットした場合の低水流路の縦断形がどうなるか心配。この地域は網状帯ないしは蛇行帯のようだが、数本の流路が1本の流路に収束する点では水路幅あたり流量が急に増加し、洗掘されニックポイント（落差）が形成される。このダムは、天端によって河床を一定以上に掘り下げない役割もしていたので、ダムを基部まで撤去するとこの役割（ローカルベースレベル）がなくなることになる。

2 主要な課題等

- ・ダムの切り方を千鳥にする場合は水理実験を行うべきである。
- ・ダムを基部までカットした場合の低水流路の縦断形がどうなるか心配。
- ・第3ダム右岸上流にある築堤の撤去については、課題整理をしつつ、もう1度現地検討を行う。
- ・ダム右岸側の水抜き穴は、まずゴミを除去し通水を回復させ、様子をみながら再度検討する。

3 現在の取り組み状況等

- ・ダムを千鳥にした場合のダム周りの洗掘の危険性、ダムを基部までカットした場合の低水流路の縦断形への影響を確認するため、水理模型実験について、実験の手法等、過年度の他部他地区の事例を参考に、予算措置も含めて検討中。
- ・築堤の撤去について、平成27年度第1回河川工作物アドバイザー会議にて現地検討を予定。